



Amihari  
visitor center

Vol.112

2024.1



まだ、こっちを見てる…

## 根気比べの“イタチごっこ”

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori \* 網張の森の生き物たち \* amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

### 困り顔の“ニホンイタチ”

例年に比べて雪が少なく低木やササがまだあちらこちらで見られる静かな森でニホンイタチに出会いました。木々の合間越しに何かがひょんひょんと跳ねるように進む姿に「あれ？リス？」とその方向を凝視しました。見逃すまいと視線はそのままに、いつでも写真が撮れるよう一眼レフを右手に構え、スノーシューの歩行音が極力出ないように忍び足で距離を縮めてゆきました。イタチは細い木の根の窪みに身を潜めこちらの出方を探っているらしく、姿は見えないまでも気配だけは伝わってきました。こちらが数歩進んだところで窪みから出てきて、雪上とは思えないほど軽やかな走りです。数メートル先の更に細い木の窪みに移動しました。窪みは浅く、テンよりひと回り小さい体でも遠目から顔が出ているのがわかり、この好機を逸さぬよう息をひそめ、写真も撮りつつ一歩ずつ近づきました。イタチはひと通り辺りを見渡したのち“鼬(いたち)の目陰(まかけ)”と言われる通り訝る様子でこちらをまじろぎもせずに見ていました。しばしの間根気比べが続きましたが、突然イタチが窪みから飛び出し長い胴を器用に動かしながら一目散に駆けてずっと先の倒木の下へ潜り込んで見えなくなりました。本物のイタチとイタチごっこができて心に残る年明けとなりました。

#### What is “Nihonitachi”?

##### 「泳ぎの得意な肉食獣」

イタチ科

頭胴長：♂27~37cm

♀16~25cm

分布：日本全土

(北海道、伊豆諸島、  
南西諸島等は人為的)

日本固有種。西日本にはひと回り大きなチョウセンイタチが生息している。山野では主にネズミ類を食べるが、指の間に水かきがあり、水中に潜って魚や水生生物を捕食することも多い。

(参考図書：「日本の哺乳類」他)

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori



第5回 網張の四季  
もりごよみ

年間を通して最も厳しい寒さに見舞われるこの時期。生き物の姿も見かける事が少なくなりますが、それでも雪上に残された様々な痕跡から、生命の営みを感じ取る事ができます。



1月1日 10日 20日 31日 2月1日 10日 20日 29日

雪氷

積雪 (55~70cm) 積雪 (35~60cm) 積雪 (50~75cm) 積雪 (35~60cm) 積雪 (75~105cm)

ササが隠れ園路以外にも散策可能 イグルー制作の適期  雪がしまり輪かんじきが好相性 

確認

園路から離れた場所のシナノキにオシャグジデンダ (樹木に着生するシダ類) ツルアジサイのドライフラワー  
モモンガのフン 雪上にウサギやテン、キツネ、リスの足跡 カモシカの食痕 ノウサギの赤シヨン   
カラ類の混群、ゴジュウカラ、コゲラ アカゲラのドラミング  ヒメネズミやオコジョの足跡  
ウソの群れ ヒヨドリ アオゲラ カケス ヤマドリの足跡 エナガの群れ  
ウスタビガの繭 雪上にトビムシの仲間やクモガタガガンボ、クロカワゲラの仲間 ヤマトニジュウシトリバ

1月の下旬頃、薬師社前の広場にイグルーを制作するのが風物詩になっています。イグルーとは雪を固めブロック状に切り出し、ドーム状に積み上げた構造物の事です。入室すると音が静かな空間で、幾何学的な壁の造形を楽しめます。

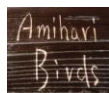


森の掲示板 

ウサギのメスが他の個体に繁殖期に入った事を知らせる尿の事を「赤シヨン」といいます。他にも、足跡やフン、食痕等から動物の行動を推理するのは行事でも人気で、アニマルトラッキングと呼ばれます。

ヤマトニジュウシトリバ 

ウシトリバはガの仲間です。窓ガラスや網戸にとまり成虫越冬している姿を、たまに見かけます。幼虫が食すのはスイカズラ科で、網張ではタニウツギやガマズミが該当します。



アミハリ・バーズ Vol. 5 4

カラ類の混群

(シジュウカラ・コガラ・ヒガラ・ヤマガラ・ゴジュウカラ・エナガ・コゲラほか)

科名：シジュウカラ科・ゴジュウカラ科・エナガ科・キツツキ科

全長：約 11~15cm

生態：留鳥

分布：全国または九州以北 (一部離島を除く)



K.Hirono '24

秋から冬にかけて、カラ類の声に交ざりゴジュウカラやコゲラの声がすぐ近くで聞こえる事があります。カラ類は厳しい冬を乗り切るために混群を作る事があります。群れを作る理由として、外敵を発見し共有するリスクの分散と、少ない食物を効率よく見つけるため等が考えられます。

群れをよく観察すると身軽なヒガラやエナガは枝先で、少し大柄なシジュウカラやヤマガラは太めの枝の上、そしてゴジュウカラやコゲラは幹回りにいる事が多いです。それぞれの鳥が得意な場所で棲み分けし、お互いに食物を奪い合わないよう工夫しているようです。たまにヤマガラやコガラが貯食した食べ物を、シジュウカラが失敬する事もあるようですがそれはご愛敬。

各々が繁殖のための巣作りや伴侶探しに忙しくなる春に群れは解消されるようです。構成メンバーの移ろいはあっても、個性的な歌手たちの期間限定コラボは続きます。

# 「山小屋に憩う」(5)

## 不動平避難小屋の39年 阿部ひろあき

撮影：平成18年8月  
三代目不動平避難小屋

### 三代目の不動平避難小屋

現在の小屋（三代目小屋）は平成17年に建て直された（写真23）。外観と規模は二代目小屋と同一だが、内容は格段と充実した小屋となった。



(写真23) 三代目不動平避難小屋

二代目小屋で問題があった冬期出入口扉の構造強化、屋根裏結露防止の断熱処理、雪吹込み防止の石積壁空隙処理、床下に調湿用木炭敷並べ、清掃用雨水貯留槽設置など。

特筆ものは小屋内部にトイレ（洋式2室）を設置したこと。その污水处理は「自然浄化式污水处理システム」とのことで、管理上殆ど手が掛からず、臭気も少なくハ工の発生も殆どないという優れたもの。平成18年から今日まで一度も便槽等を開けたことも無い。管理は便器と個室の清掃、使用済み紙の処理（八合目小屋で焼却）で、それまでの公衆便所とは比較にならない手軽さである。八合目小屋の別棟トイレ（平成15年建設）も同じ処理方式だが、汚泥等処理はまだまだ余裕があるとのこと。地形地質等の制約はあると思うが、山小屋のトイレには大変有効なシステムと思う。

### 三代目小屋の管理

平成17年は網張ビジターセンター開館の年でもあり、同時に環境省登録の「岩手山地区パークボランティア」（以降、「岩手山地区PV」と略称）が発足した年でもある。

これまで不動平小屋管理等に関わってきたメンバーは揃って岩手山地区PVに登録した。

三代目小屋の維持管理は滝沢村（現滝沢市）に委託され、県山岳SC協会が実務を担当するが、小屋開きや小屋閉め時の諸作業は、それまでの経緯もあり、岩手山地区PVに任されてきた。併せて不動平一帯から山頂部までの登山道等維持管理も継続した。県山岳SC協会は毎週末等に加盟山岳会員交代で三代目小屋の清掃を実施しているが、我々も出来るだけその間隙（週なかば）にトイレ掃除等にも取組んだ。

### 春先の除雪作業

三代目小屋は前述のとおり二代目小屋の問題点を殆ど解決する構造となった。残る管理上の課題としては、春先の夏期出入口除雪等が挙げられる。これは小屋の構造（出入口の位置等）に起因するものなので、今後も解消されることはない。それでも、新しい小屋の最初の小

屋開きは、特別の感慨だった。二代目小屋の管理を全う出来たことを。その管理ボランティア常連に加え、環境省と県の職員も参加して祝ってくれた（写真24）。

次年度以降、想定外の問題が生じた。それは利用者の不注意によるもの。上部の冬期出入口の扉は頑丈に作られているので破損は無いが、しっかり閉められないため、大量の雪の吹込みが再三にわたり発生した（写真25）。その防止対策を試行錯誤の結果、外側にゴムバンドを掛ける方式にした。メンバー2人が何度もトライし、私費で対応してくれた。



(写真24) 三代目小屋最初の  
小屋開きにて(平成18年5月)



(写真25) 冬期出入口への吹込み雪排雪

### 公衆便所跡地の植生回復努力

三代目小屋建設に伴い撤去された不動平公衆便所跡地（写真26の右上）の裸地部分の早期植生回復促進目的で、周辺植物の種子を採取・播種した（写真27）。しかし、なかなか回復しない。高山帯における植生回復の難しさを痛感させられている。



(写真26) 完成した小屋と  
公衆便所撤去跡(右上)



(写真27) 公衆便所跡地周辺で  
在来種子採取

### 登山道の水切り設置と補修

鬼ヶ城分岐から小屋までの登山道は洗掘されて水路にもなる。融雪水や雨水が小屋前の土壌処理装置（写真26の四角黒色部分）への悪影響を防止するため、4ヶ所に水切りを設置し、毎年の作業で維持している（写真28）。



(写真28) 登山道の水切り設置

(次号につづく)

画像提供：岩手山地区パークボランティア

### 12/24「クリスマスを新雪の網張の森で★」 (スノーシューハイキング)



例年より積雪量が少なくササがまだ出ている為、今回は園路沿いにルートを取りました。前日に降った新雪がフカフカで、風もなく穏やかな絶好のハイキング日和。途中でヤマブシタケやゼミの抜け殻、樹木の冬芽の観察も。キャンプ場ではクリスマスリースを囲み、サンタさんからのプレゼントや歌でホワイトクリスマスを楽しみました。「スノーシューで歩かないと見られない景色を見ることができた」参加者感想より。総勢 28 名

### 1/13「この時期しか歩けない！」 冬の鞍掛山麓探検スノーシューウォーク」



暖冬の影響で積雪量が心配されましたが、前日の降雪もあり新雪の積もる牧野を歩き春子谷地展望台を目指しました。フカフカの雪に倒れ自身の雪跡をつける方も。途中雪が降ったり風が吹きついたりもしましたが、最後には青空が見られました。雪原の中を颯爽と走るテンにも出会えました。「雪の中を歩く経験が出来た。徐々に晴れてきて景色の変化を楽しんだ」参加者感想より。総勢 31 名

## インフォメーション

- 1/6~3/31『網張の森雪上ハイキング』**  
(行事日を除く毎週土日開催)  
10:00~11:00 網張ビジターセンター集合  
定員:各7名 ※要事前予約  
参加料:一人300円  
(スノーシューレンタル別途 100円)
- 3/9(土)『雪の鎌倉森をめざす』(冬山登山体験)**  
9:00~14:00 網張ビジターセンター集合  
※定員に達しました
- 4/7(日)『根開きのブナの森で春を探そう』**  
(スノーシューハイキング)  
9:30~13:30 網張ビジターセンター集合  
定員:15名 ※要事前予約  
参加料:大人 500円 小学生以下 300円  
(スノーシューレンタル別途 100円)

### 好評です！森の材料で作る手作り体験 (毎週土日開催のミニ企画)

11月下旬から12月は、ペレットストーブの火のゆるやかな館内で、森の恵みを頂いた、クリスマスリース・オーナメント・創作クラフト作りが好評でした。すっかりハマって3回連続で参加されたご家族も！材料の特徴を生かした個性豊かな作品が出来ました。



11月下旬から12月は、ペレットストーブの火のゆるやかな館内で、森の恵みを頂いた、クリスマスリース・オーナメント・創作クラフト作りが好評でした。すっかりハマって3回連続で参加されたご家族も！材料の特徴を生かした個性豊かな作品が出来ました。

### 「網張の森雪上ハイキング」毎週土日開催 1月から開始しています！

雪が積もった森は普段入ることのできないところも歩かれます。一面真っ白な冬の森を、動物の足跡や冬芽の観察を楽しみながら1時間ほどのハイキング。森の奥にたたく木との出会いや雪上を自由に歩けることも醍醐味の1つです。



### 冬季特別企画 12/22~2/25

#### 「網張の森にすんでいる動物たち」

センサーカメラで撮影された動物の写真展・動物の足跡クイズ・動物たちの衣替え・スケッチ体験や動物カードゲームを設置。網張の森の生きものたちに関心を持ってもらいたいと企画しましたのでぜひご利用下さい。



### 網張温泉スキー場のスキーセンターに 「網張ビジターセンターコーナー」が開設されました！



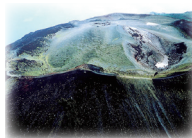
スキー目的で網張を訪れた方々にビジターセンターを知っていただけるよう、企画展や行事をはじめ、スノーシューでの雪上散歩など冬の森の楽しみ方も併せてご紹介しています。

### 12/10 雫石町西山公民館地域人財塾 「クリスマスツリー講座」



松ぼっくりを使ったクリスマスツリーや、スギの葉や広葉樹の小枝を使ったオーナメントを作りました。最後はリボンやバルなどで飾り付け、思い思いのツリーが完成しました。「どんなツリーを作るのだろうと思って参加した。素敵なツリーができた」参加者感想より。3名参加

### ー現在開催中のビジターセンター企画展ー 1月5日(金)~2月29日(木) ー 芳村 忠男 写真展 ー 「美しき岩手山・岩鷲山」



セソナ機で岩手山を撮影する様になり、花巻空港から離陸して最初に見るのが岩手山！今回のフライトが天候に恵まれるか否かを指標としております。岩手山の山頂がスッキリと見えれば「今日については！！」安心して青森・秋田・三陸沿岸へと向かいます。岩手山は2,000mを超える高山で、山頂から盛岡に向かって吹く「吹きおろし風」に巻き込まれたら空中分解です。雲の動きを見て、気流の穏やかな時を見計らい、ソロリソロリと近づき、ご機嫌を伺いながら撮影しております。 - 出展者の言葉より -

### モモンガのつぶやき

ビジターセンターが開館してから同じ期間、この網張で過ごしていますが、「何か、いそう」という微かな感覚を持ってたことが大きな収穫になりました。森の中を歩き何だか気になる木を見上げるとセミの抜け殻があったり、下を向くと哺乳類のフンにまみれたオオセンチコガネがいたり、早春にはヤマアカガエルが「キャハハハ…」の声や、曇天の日にはコウモリがこちらに向かってきて頭のすぐ上を飛んだこともあれば、食べ物を探しているアナグマと見つめ合ったり。そんな時は決まって一人で「何か、いそう」と感じている時。これからもその感覚が消えてしまわないよう、外に出て歩き回ろうと思います。(佳)



### 十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 11月 909人 ◆ 12月 549人  
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 11月 2.2℃ ◆ 12月 -4.8℃

### 発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)  
TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778  
URL <http://amihari17.ec-net.jp>  
E-mail [amihari@vanilla.ocn.ne.jp](mailto:amihari@vanilla.ocn.ne.jp)

開館 冬期 (11月から3月末まで) 9時~17時 毎週火曜日休館